

日本計量新報

計測と科学

日本計量協会

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5561-1111 FAX 03-5561-1112

http://www.jim.co.jp

定休日 日曜日、祝日

代印 あり

送料 あり

購読料 あり

発行部数 10,000部

創刊 1951年

編集長 飯塚幸三

編集 飯塚幸三

印刷 天和製版株式会社

印刷所 東京都千代田区千代田1-1-1

電話 03-5561-1111

ファックス 03-5561-1112

インターネット http://www.jim.co.jp

お問い合わせ 03-5561-1111

購読申し込み 03-5561-1111

訂正依頼 03-5561-1111

印刷 天和製版株式会社

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5561-1111 FAX 03-5561-1112

http://www.jim.co.jp

定休日 日曜日、祝日

代印 あり

送料 あり

購読料 あり

発行部数 10,000部

創刊 1951年

編集長 飯塚幸三

編集 飯塚幸三

印刷 天和製版株式会社

印刷所 東京都千代田区千代田1-1-1

電話 03-5561-1111

ファックス 03-5561-1112

インターネット http://www.jim.co.jp

お問い合わせ 03-5561-1111

購読申し込み 03-5561-1111

訂正依頼 03-5561-1111

印刷 天和製版株式会社

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5561-1111 FAX 03-5561-1112

http://www.jim.co.jp

10月に関ブロ、東北・北海道計量大会

関東甲信越は10月17日、東北・北海道は10月11日開催

11月には近畿計量大会も

10月から計量協会などの地域協議会が相次いで開かれる。2006(平成18)年度関東甲信越地区計量協会・計量士会合同連絡協議会が10月17日(火)、(社)神奈川県計量協会と神奈川県計量士会の当番で、横浜市の「ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル」で開催される。06(平成18)年度東北・北海道計量大会は10月11日(水)、12日(木)に、(社)福島県計量協会の当番で、福島市の「摺上亭大島」で開かれる。11月22日(水)には近畿計量大会が開かれる。

関東甲信越地区計量協会・計量士会合同連絡協議会 計量制度等を5つの分科会で討議

関東甲信越地区計量協 講演、分科会、全体会議
会・計量士会合同連絡協 の3部構成で実施する。議会は、合同で開かれる計量制度の見直しが行われる。今年(平成18)は分科会が4回、280名を超える参加が見込まれている。

基調講演は飯塚幸三(社)日計振会長

基調講演は飯塚幸三(社)日計振会長。日本計量振興協会会長。演題は「計量の社会的使命—その変遷と計量法をめぐって」を参考として、計量が果たす役割がますます重要になってきており、必要とされる範囲も化学、医療分野などへ拡大している。最先端技術を支えるのも高度な計測技術である。工業技術院長や国際度量衡委員として活躍する。



員として活躍し、幅広い知見を持つ飯塚氏が計量の社会的使命を説明する。▽はじめに▽計量の活用
の拡大▽計量の役割の増大▽わが国の計量システム
の現状と今後▽結び
計量の使命とはなに
か
分科会は、それぞれ計
量に関するテーマを設
け、グループ討議する。
テーマは5つ。①計量士
適正計量管理事業所、②
計量の国際化、③取締り・
量目、④検定・検査、⑤
計量の啓発育成。
①は、登録更新制(更新
期間、登録機関、会員
制度のあり方)や更新時
研修、専門区分化など計
量士制度のあり方や、適
正計量管理事業所への立



UDS-1VI/N-WP

天和製版株式会社

TEL 03-5561-1111

入検査のあり方や新マ
ク制度など、現在進めら
れている計量制度の見直
し内容をまとめて討議す
る。
②は、国際的な相互承
認がされていないため
困っている事例などを事
前に各県から出してもら
い、事例をもとに討議す
る。
③は、計量制度の見直
しでも意見が出されてい
る計量行政への計量士活
用方法、密封商品に対す
る検査手法のあり方など
を討議する。▽計量士の
身分(行政機関の採用条
件や契約等)▽立入対象
量(取引・証明における計
量を定める者)▽計量士に
不合格権限の付与▽工場
等における大量生産品
(密封商品)に対する検
査手法のあり方
④も計量制度の見直し
に絡む問題であり、▽機
械式の使用実情と器種別
規制のあり方▽検定・検
査の自治事務化による計

量行政の弱体化と規制緩
和のあり方▽民間の能力
活用による公的義務の補
完のあり方と評価、など
を議論する。
⑤は、▽計量の重要性
を、消費者、企業、児童
学生にどのように教育し
ていくか、計量の普及・
啓発活動の現状と問題点
▽国や自治体などの行
政、計量士会、計量協会、
企業、学校などの果たす
役割▽今後の課題や取り
組みの方向などについて、
さまざまなアイデア
を持ち寄って討議する。
分科会での討議の結果
は、引き続き行われる全
体会議で報告書を配付
し、報告する。
(◎面につづく)

休刊のお知らせ

10月8日号は休刊と
させていただきます。次
号は10月15日号として
発行致します。本紙は月
4回の発行です。
日本計量新報社

今年度第1回国計連開く 臨床分野に活発な動き、計量法見直しに進展も



2006(平成18)年
度第1回国際計量研究連
絡委員会(国計連、小野
晃委員長)が9月27日、
東京都港区の泉ガーデン
コンファレンスセンター
で行われた。
国計連は、(独)産業技術
総合研究所(産総研)理
事長の諮問委員会であ
る。計量標準、標準物質

計量分野は、国際的相互
承認の広がりや、食品安
全や医療分野への拡大を
見せ、欧州ではR.O.H.S
指令が発動間近である。
刻々と変化する計量制度
に対して、国計連はさま
ざまな分科会を立ち上
げ、活発に議論を行って
いる。社会に役立つ計量
を掲げ、新たな問題にも
臨機応変に対応していき
たい、と述べた。
議事に入る前に、新委
員紹介があった。所属
組織の人事異動などに
り着任した委員のほか、
今回新たなポストから、
厚生労働省健康局矢島鉄
也生活習慣病対策室長が
メンバーに加わった。
前回議事録が異議なく
承認され、議事に入った。
吉田課長が、計量制度
の見直しについて述べ
た。数内雅幸同省計量行
政室長とともに、計量制
度検討小委員会報告書案

今週の主な記事

- ① 地域協議会次ぎ開催 第1回国計連 休刊のお知らせ
- ② メトラー・トレドがJCSS校正業務再開
- ③ 計測・検査技術 7月の計測機器展の 様子
- ④ 寄稿 岩田重雄氏
- ⑤ 寄稿 黒須茂氏 第14回品質工学研究発表大会報告(4)
- ⑥ JCSS資料計量標準の供給開始を控える 計量連
- ⑦ 寄稿 齊藤勝氏 計量とくちくちメモ 社説
- ⑧ 新監事 三ノ宮三郎氏、アノノ新社長 様子